

雨乞いのまち鶴ヶ島活性化事業

—No.36 鶴ヶ島市—

【事業の内容】

「脚折雨乞(すねおりあまごい)行事」は、4年に1度、脚折雨乞行事保存会が主体となって開催される伝統行事です。この行事の持つ「地域との絆」、「自然との共生」といった理念を核とし、「雨乞いのまち鶴ヶ島」という意識を市民全体で共有することにより“きずな”を深めていくことや、雨乞いにちなんだまちづくり活動を広く展開していくことにより、地域の活性化を図ります。

平成27年度に市民とともに作成した「雨乞いのまち鶴ヶ島活性化ビジョン」に基づき、「脚折雨乞行事」の開催に当たり、来訪者へのおもてなしや、賑わいの創出のため、地域住民を主体とする観光団体へ補助金を交付し、伝統行事の継承と観光の振興を、地域の活性化へつなげていきます。

【事業年度】

平成28年度

【予算額(千円)】

7,835千円

【財源】

地方創生加速化交付金(国)、寄付によるまちづくり基金繰入金(ふるさと納税分)、一般財源(市)

【事業実施に至った背景・経緯】

鶴ヶ島市は、都心部のベッドタウンとして、高度経済成長期を境に人口が急増した経緯があり、流入人口が多く、地域への関心が薄い傾向にあります。また、市民参加型の大きな行事が少ないことが、地域の連帯感を乏しくさせる一因となっています。

こうした中、脚折地区で江戸時代から続く伝統行事である「脚折雨乞」が、総務省管轄地域活性化センター主催の「ふるさとイベント大賞」において、埼

玉県で初となる最高賞の大賞（総務大臣表彰、平成 25 年）を受賞しました。これは、一度途絶えてしまった行事が、地域住民によって復活・保存され、地域の絆を醸成するものとして評価されたものです。この受賞を契機に、行事に関わりたい、鶴ヶ島市の誇りにしたいという市民の機運が一層高まった一方で、脚折雨乞行事に関わるのは、脚折地区住民と市教育委員会のみという状況にありました。

そこで、平成 27 年 11 月から平成 28 年 2 月にかけて、市民と行政が共に考える場として「雨乞いのまち鶴ヶ島活性化ビジョン検討会」を開催し、市民と行政が一体となって雨乞いを核としたまちづくりを目指すことにしました。今後、このビジョンに基づき、雨乞い行事の持つ「地域の絆」、「自然との共生」といった理念を市民全体で共有し、ふるさと意識や地域の絆の醸成、観光や産業振興等へつなげ、「雨乞いのまち鶴ヶ島」を広く内外に発信することで、地域の活性化を目指します。

【事業のPRポイント】

「脚折雨乞」は国選択無形民俗文化財、市指定無形文化財に指定される行事です。長さ 36 メートル、重さ 3 トンの巨大な龍神が市内を練り歩き、雷電池の中で雨乞いを行う姿は、非常に豪快で見る者を圧倒します。

しかし、会場が小さく、見学者数も限られており、主催する保存会だけでは、来場者へのおもてなしが十分にできない状況にありました。そこで本事業では、保存会が行事に集中できるよう観光的な面を市及び観光団体が受け持ち、来場者への対応を行います。また最寄り駅となる若葉駅西口広場や会場脇に大型モニターを配置して生中継を行うことで、より多くの人が行事を見られるよう、環境整備を行います。

【事業実績・成果・今後の展開】

本事業は、本年度実施される脚折雨乞行事の活性化だけには留まりません。行事の間の 3 年間にも市民とともに関連イベントを実施するとともに、行政においても、各部署にて行われる事業の背景に雨乞いの理念を盛り込むことで、市民・行政が一体となって「雨乞いのまち鶴ヶ島」を盛り上げます。

また、2020 年の東京五輪は、次々回の脚折雨乞行事開催年と重なります。川越市の霞ヶ関 CC が五輪ゴルフ競技の会場に決定しましたが、プライオリティルートには、当市の圏央鶴ヶ島 IC の利用が予定されています。東京五輪を当市の魅力を発信する大きな契機と捉え、継続的な事業展開を図ります。

〔 連絡先 〕産業振興課商工労政担当 049(271)1111(内線232)